

診療所実習で学んだこと

あかりこどもクリニック 1年 NT

今回私たちは、今までに経験したことのない、さまざまな貴重な体験をさせていただいた。実習を通して、地域の小児科は、子供達の健康を近くで見守り、健康に生活できるようなサポートを担う重要な機関であることを実感した。

実際に診察の様子を見学することにより、子供の診察をすることは難しいのだと改めて感じた。小児科には乳児期から幼児期、そして児童期の子供達が母親や父親と一緒に来院する。子供達は自分の症状や気持ちを言葉でわかりやすく説明することは難しいため、保護者からの説明を丁寧に聞くということが小児科での診察にとって重要であることを学んだ。また保護者からのお話をただ聞くだけでなく、保護者が子供の育児に対する不安やストレスを少しでも取り除けるような言葉掛けも大切であると学んだ。診察の最後には「他に心配なことはありますか？大丈夫ですか？」と温かい言葉をかけることで、保護者が何か言い残していたことや悩みなどを打ち明けるきっかけを作る工夫がされていた。

また、あかりこどもクリニックは子供達や保護者の方が安心して病院を訪れることができるような工夫や環境づくりが至る所になされていた。例えば、子供達にとって注射は嫌なイメージであるはずだ。そのため診察室には、子供が好きなキャラクターのぬいぐるみが置かれていたり、注射後に貼る絆創膏にはキャラクターのイラストが書かれていた。その他にも院内は、病院であるということを忘れさせてくれるようなデザインであり、子供達にとって過ごしやすい環境であると感じた。また、あかりこどもクリニックは、栄養士の方やカウンセラーの方を呼び、子供の食事や睡眠についてのアドバイスや、また保護者の相談に乗るといった機会を提供していた。実際にその場を見学させていただいたが、専門職に相談できる機会が保護者にとって大きな安心感や支えとなっていることを実感した。また、保護者が気持ちを整理することで、より前向きに育児に取り組む姿勢につながるのだと感じた。

地域医療における診療所の役割は、地域に生活している人々の健康を第一に守り、医師だけでなく、医療に携わるすべての人が、患者さんや患者さんの家族が安心できるような医療を提供することであると考えます。また、今回の診療所実習を通して、診療所は病気を治すだけでなく、人々の不安を取り除き、心の支えとなる場所であることを学んだ。

今回の実習を通して、子供達が安心して過ごせる環境づくりの大切さや、保護者の方に寄り添った支援のあり方について多くを学ぶことができました。このような貴重な経験をさせていただいた北原先生並びにスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。今回学んだことを糧として、今後の学びにしっかりと活かし、さらに努力を重ねていきたいと思っております。